

平成 23 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理方法，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（人数，平均点及び標準偏差，学校平均点の分布状況，設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（問題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

<検索用キーワード>

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析

研 究 会 委 員

愛知県立千種高等学校教諭	三宅 洋 未
愛知県立中村高等学校教諭	武田 尚 士
愛知県立東郷高等学校教諭	関 友 彦
愛知県立長久手高等学校教諭	杉 山 一 朗
愛知県立岡崎北高等学校教諭	広瀬 八 重 子
愛知県立岩津高等学校教諭	荻 窪 雄 太
愛知県立幸田高等学校教諭	木 藤 邦 雄
愛知県立高浜高等学校教諭	木 下 哲
愛知県総合教育センター研究指導主事	米 津 明 彦（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理方法	56
3 調査結果の概要	57
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	60

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和 29 年以来継続して実施し、平成 23 年度で 58 回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- (1) 中学校と高等学校の連携資料
- (2) 高等学校第 1 学年における指導上の参考資料

2 調査の実施及び処理方法

調査の実施は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題の作成、報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターに「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」という研究会を設置して行った。

(1) 実施の時期

平成 23 年 3 月下旬から 4 月上旬までの間に、各参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度		平成 20 年度	
	学科数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全 日 制	普通科	107	27,279	107	27,644	114	28,309	108	27,248
	総合学科	6	1,476	5	1,237	5	1,199	4	957
	商業科系	7	552	7	559	9	918	9	916
	家庭科系	12	699	12	698	13	778	10	630
	英語科系	3	152	4	178	3	150	3	153
	他の学科	11	756	11	734	11	661	10	570
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		146	30,914	146	31,050	155	32,015	144	30,474

(注意 1) 表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

(注意 2) 「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校新入学生徒を対象とするものであり、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を調査し、各学校において指導計画を作成する際の参考資料を提供することを目的としている。このために、中学校での既習事項がどの程度定着しているかを、言語の領域ごとに調査した。

問題作成に当たっては、次の点に留意した。

- ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。
- イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。
- ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 調査統計事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

- ア 平均点
- イ 得点分布表
- ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の 10%を抽出）

エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

[表1] は、調査対象 30,914 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

[表 1]

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	3,489	5,257	5,020	4,192	3,493	2,856	2,686	2,422	1,360	139	30,914	61.7
%	11.3	17.0	16.2	13.6	11.3	9.2	8.7	7.8	4.4	0.4	標準偏差	23.6
普通科	3,405	5,106	4,751	3,803	2,992	2,289	1,962	1,780	1,071	120	27,279	64.0
%	12.5	18.7	17.4	13.9	11.0	8.4	7.2	6.5	3.9	0.4	標準偏差	23.1
総合学科	13	55	113	165	214	247	301	271	94	3	1,476	44.7
%	0.9	3.7	7.7	11.2	14.5	16.7	20.4	18.4	6.4	0.2	標準偏差	19.1
商業科系	0	12	33	64	98	97	145	73	26	4	552	44.3
%	0.0	2.2	6.0	11.6	17.8	17.6	26.3	13.2	4.7	0.7	標準偏差	16.9
家庭科系	3	21	49	80	101	116	141	119	65	4	699	43.3
%	0.4	3.0	7.0	11.4	14.4	16.6	20.2	17.0	9.3	0.6	標準偏差	19.0
英語科系	61	34	23	22	6	4	0	2	0	0	152	81.1
%	40.1	22.4	15.1	14.5	3.9	2.6	0.0	1.3	0.0	0.0	標準偏差	15.0
他の学科	7	29	51	58	82	103	137	177	104	8	756	40.1
%	0.9	3.8	6.7	7.7	10.8	13.6	18.1	23.4	13.8	1.1	標準偏差	20.5

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成 23 年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を各項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音問題 正答率 65.4% 【2】語彙問題 正答率 46.4%）

ア 二重母音と短母音の区別を正しく理解していない。

イ 文脈や対話に応じて適切な表現を使うことができない。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 68.8% 【4】文法・表現問題 正答率 47.9%）

ア 類似した意味をもつ前置詞の区別が曖昧な生徒が見られる。

イ 同じ内容を多様に表現することができない。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 70.7%）

ア 基本的な会話表現や大まかな対話の展開については理解できている。

イ 語句が省略されている表現を適切に使用することが難しい。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 65.7%）

助動詞を伴う間接疑問の語順が定着していない。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 61.8%）

内容把握の手掛かりを直前の文や段落に求め、後に続く展開を考慮しないため、文全体の大意を理解することができない。

(6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 60.0%）

会話の中で聞き取った内容を関連付けて理解することができない。

5 統計資料

(1) 人数, 平均点及び標準偏差

[表2] は, 人数, 平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。平成23年度は, 昨年度と比較して, 調査校全体で平均点は0.9点上昇し, 標準偏差は1.4ポイント下降している。

人数, 平均点及び標準偏差の推移 [表2]

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
人数	34,044	33,233	31,004	29,980	30,555	30,474	32,015	31,050	30,914
全体	60.7	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7
標準偏差	24.4	22.2	23.1	22.7	22.4	23.2	21.4	25.0	23.6
普通科	62.5	62.5	66.8	67.4	62.0	57.1	58.5	63.0	64.0
標準偏差	24.1	22.0	22.7	22.3	22.0	22.7	21.2	24.5	23.1
総合学科					42.1	35.1	42.7	43.9	44.7
標準偏差					17.3	16.0	15.9	20.5	19.1
商業科系	39.0	44.4	49.5	47.9	43.6	34.3	40.9	42.9	44.3
標準偏差	17.4	15.5	17.5	16.7	15.3	15.0	14.1	19.0	16.9
家庭科系	42.4	42.7	46.7	48.7	43.7	37.0	40.3	38.9	43.3
標準偏差	19.9	17.2	19.3	20.3	18.4	15.5	15.9	19.7	19.0
英語科系	74.3	76.9	87.5	88.0	77.0	74.5	71.8	78.2	81.1
標準偏差	22.4	17.5	11.1	10.1	15.8	18.5	17.6	20.1	15.0
工業科系	52.6	52.3	54.8	48.4					
標準偏差	20.0	16.8	18.7	19.3					
他の学科	44.0	44.3	47.2	48.5	42.0	31.1	35.0	37.8	40.1
標準偏差	21.1	18.7	20.3	20.6	20.1	19.4	19.3	21.3	20.5

(注意1) 平成18年度以前の「総合学科」及び平成19年度以降の「工業科系」は, 「他の学科」に含まれる。

(注意2) 平成21年度については, 約10年前の生徒の学力との比較のため, 平成11年度を中心とした過去の問題を使用した。

(2) 平成23年度 学校平均点の分布状況

[表3] は学校平均点の分布状況をまとめたものである。同一学科の学校間で相当の得点差が見られる。なお, 普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)は, 76.0点(最高点93.0-最低点17.0)となっている。([表4])

学校平均点の分布状況 [表3]

得点域	-90	-85	-80	-75	-70	-65	-60	-55	-50	-45	-40	-35	-30	-25	-20	-15	-10	-5	合計
全体	6	5	7	11	8	15	13	11	10	10	9	9	11	8	5	4			142
普通科	5	5	7	11	7	13	9	6	8	6	5	3	7	5	3	3			103
総合学科							1	1			1	2	1						6
商業科系							1	1		2	1	1	1						7
家庭科系								3	1	2	2	1	1	1	1				12
英語科系	1				1		1												3
他の学科						2	1		1			2	1	2	1	1			11

(注意) 人数10名以下の学校(学科, コース)は含まれていない。

普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)の推移 [表4]

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
得点差	76.1	74.3	76.7	76.3	74.0	72.1	72.4	78.1	76.0

(3) 設問別正答率 (%) (過去との比較)

【表5】は抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【1】発音と【6】整序・作文の正解率がやや高く、【4】文法・表現の正答率がやや低いことが分かる。

設問別正答率 (%) の推移 (過去との比較)

【表5】

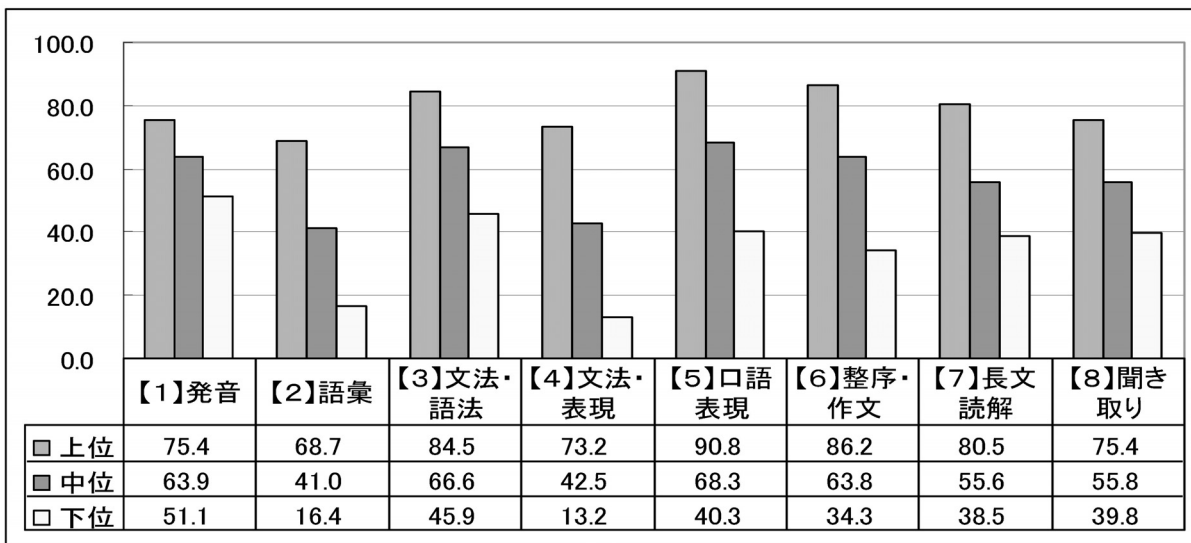
年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
抽出人数	3,515	3,407	3,182	3,075	3,108	3,102	3,252	3,158	3,284
全設問	60.7	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7
【1】発音	48.0	62.0	60.4	43.6	63.9	54.2	53.3	48.5	65.4
【2】語彙	45.0	47.9	62.6	58.7	59.6	44.5	53.0	54.0	46.4
【3】文法・語法	70.5	70.1	71.6	71.3	57.3	71.1	55.5	67.2	68.8
【4】文法・表現	54.3	58.3	61.5	63.9	54.4	49.4	42.6	66.8	47.9
【5】口語表現	77.1	82.6	86.3	89.9	62.4	67.6	86.4	76.7	70.7
【6】整序・作文	57.7	48.7	62.7	55.9	54.6	49.1	42.8	56.3	65.7
【7】長文読解	69.9	58.0	61.5	65.3	61.5	51.5	54.8	62.3	61.8
【8】聞き取り	58.4	67.6	53.3	79.0	65.7	52.7	72.1	50.6	60.0

(4) 平成23年度設問別正答率 (上位・中位・下位層の比較)

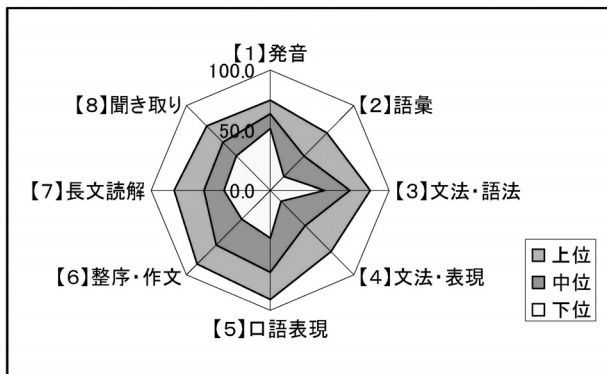
【図1】は、調査校146校(学科・コース)から抽出した3,284名中の学校平均点上位45校(偏差値55以上)に所属する1,398名(上位層)、学校平均点中位49校(偏差値45以上55未満)に所属する1,035名(中位層)及び学校平均点下位52校(偏差値45未満)に所属する851名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正解率 (%) (上位・中位・下位層の比較)

【図1】



設問別正解率 (%) (レーダーチャート) 【図2】



【図2】は【図1】をレーダーチャートにしたものである。各設問ごとに、各層の正答率を見ると、設問【2】語彙及び【4】文法・表現で各層の差が大きく、特に下位層の正答率が低い。設問【1】発音では、各層の差は比較的小さい。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別を測る。	
【1】 次の(1)～(5)の語について、下線部の発音が同じものをア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。	
(1) <u>talk</u>	[ア baseball イ class ウ fall エ land]
(2) <u>smile</u>	[ア decide イ river ウ until エ written]
(3) <u>visited</u>	[ア <u>cried</u> イ <u>helped</u> ウ <u>looked</u> エ <u>wanted</u>]
(4) <u>thirsty</u>	[ア <u>another</u> イ <u>anything</u> ウ <u>either</u> エ <u>together</u>]
(5) <u>only</u>	[ア <u>both</u> イ <u>holiday</u> ウ <u>money</u> エ <u>once</u>]
配点	10点(各2点)
正解	(1) ウ (2) ア (3) エ (4) イ (5) ア

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,284	2,921	148	56	72	16	71
(1) <u>talk</u>	65.4	83.6	84.8	73.6	87.5	75.0	56.3
(2) <u>smile</u>		79.0	80.1	70.3	69.6	68.1	66.2
(3) <u>visited</u>		78.2	78.6	75.0	78.6	76.4	70.4
(4) <u>thirsty</u>		56.2	57.8	38.5	50.0	44.4	40.8
(5) <u>only</u>		30.2	30.9	20.3	35.7	22.2	22.5

本年度は、小問(1)、(2)、(5)を母音に関する問題、(3)、(4)を子音に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、調査校全体の正答率)は65.4%であった。

以下、平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(分析答案)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	記号	発音	各誤答数	小問	誤答数	記号	発音	各誤答数
(1) <u>talk</u> [ɔ:]	17	ア	[ei]	7	(4) <u>thirsty</u> [θ]	50	ア	[ð]	5
		イ	[æ]	4			イ	正答 anything	
		ウ	正答 fall				ウ	[ð]	37
		エ	[æ]	6			エ	[ð]	8
(2) <u>smile</u> [ai]	16	ア	正答 decide		(5) <u>only</u> [ou]	72	ア	正答 both	
		イ	[i]	8			イ	[ɑ]	63
		ウ	[i]	4			ウ	[ʌ]	7
		エ	[i]	4			エ	[wʌ]	2
(3) <u>visited</u> [id]	17	ア	[d]	5					
		イ	[t]	2					
		ウ	[t]	10					
		エ	正答 wanted						

<考察>

小問(1)は、-a-の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は83.6%と本問中最も高かった。誤答は分散しており、見出し語も含めどの語もよく定着していた。

小問(2)は、-i-の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は79.0%とかなり高かった。見出し語を含め、選択肢の多くがなじみ深い語であったためと考えられる。

小問(3)は、規則動詞の活用-edの発音を問う問題で、調査校全体の正答率は78.2%とかなり高かつ

た。動詞[id]の発音は比較的定着していると思われる。

小問(4)は、-th- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は56.2%であった。誤答50例のうち37例が **ウ either** であった。**ア another** と **エ together** に比べ、**either** はなじみのない単語であると考えられる。

小問(5)は、-o- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は30.2%と本問中最も低かった。誤答72例のうち63例が **イ holiday** であった。これは、見出し語 **only** の発音を[a]と誤って理解していたためと思われる。二重母音[ou]と短母音[a]の区別ができていない。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(5)に見られるように、二重母音と短母音の区別を正しく理解していない。特に二重母音[ou]を含む語を正確に発音できない。

<具体的な指導例>

二重母音と短母音の区別をつけるために、教科書等の英文に出てくる[ou]と[a]など、発音に意識を向けたい箇所に線を引き、音読を繰り返すことで正しい発音を身に付けさせる。短母音には一重線を引き、二重母音には二重線を引くなど工夫をする。

<例>

Both the old man and the old woman got only ten dollars for a whole day's work.

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) Yesterday my sister went (s) at a department store.
- (2) My sister's dream is to become a (n). She wants to help sick people.
- (3) I've lost my (k). I can't open the door.
- (4) You can (b) three books from the library for a week.
- (5) I'm (i) in rock music. My father likes it, too.
- (6) A: What (s) are you studying now?
B: I'm studying math. I like it very much.
- (7) A: Is English easy for you?
B: No, it is (d) for me.
- (8) A: Which (s) do you like the best?
B: I like spring.
- (9) A: Have you ever been (a)?
B: Yes. I've ever been to Canada, America, and Australia.
- (10) A: I hear she has already finished all the homework.
B: I can't (b) it! She played with us all day yesterday.

配点：10点（各1点）

正解：(1) shopping (2) nurse (3) key (4) borrow (5) interested
(6) subject(s) (7) difficult (8) season (9) abroad (10) believe

<抽出答案における【2】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3,284	普 通 科 2,921	総合学科 148	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 71	
(1) shopping	46.4	51.8	54.7	28.4	33.9	22.2	62.5	23.9
(2) nurse		20.2	21.6	6.1	10.7	6.9	50.0	9.9
(3) key		52.0	54.8	25.7	37.5	20.8	81.3	29.6
(4) borrow		27.7	29.7	7.4	14.3	11.1	68.8	5.6
(5) interested		59.8	62.5	41.2	39.3	25.0	93.8	28.2
(6) subject(s)		63.4	66.0	36.5	46.4	45.8	81.3	39.4
(7) difficult		70.0	72.4	51.4	53.6	51.4	93.8	36.6
(8) season		68.1	69.9	51.4	67.9	55.6	100.0	33.8
(9) abroad		34.6	37.2	8.1	10.7	15.3	75.0	11.3
(10) believe		16.6	18.0	0.7	5.4	1.4	50.0	5.6

調査校全体の正答率は46.4%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	23年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(7) difficult	70.0	74.1（17年度）
(8) season	68.1	64.9（19年度） 60.8（9年度） 51.0（3年度）
(10) believe	16.6	18.0（20年度）

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	つづりの誤り（数）	その他の誤り（数）	無答
(1) shopping	48	6 : shoping (4), sopping (2)	32 : shop (6), school (3), store (3) 等	10
(2) nurse	88	69 : narth (12), nars (8) 等	9 : nice (4), need (1), not (1) 等	10
(3) key	47	9 : kee (4), kie (4), kие (1)	24 : kind (15), keep (2) 等	14
(4) borrow	79	5 : ballow (2), bollow (2) 等	68 : buy (16), bought (13), bring (12) 等	6
(5) interested	46	6 : intersted (4), intereted (1) 等	33 : interesting (20), important (7) 等	7
(6) subject(s)	32	13 : subuject (3), sabjct (1) 等	11 : start (3), shall (2), such (1) 等	8
(7) difficult	22	12 : dificult (4), difficurt (2) 等	10 : different (6), don't (3) 等	0
(8) season	16	7 : seasen (2), seazon (1) 等	7 : seasons (2), sport (2) 等	2
(9) abroad	74	15 : abroud (6), abrou (3) 等	46 : another (10), america (6) 等	13
(10) believe	96	10 : belive (3), beleave (1) 等	52 : be (8), busy (8) 等	34

<考察>

小問(1)から(5)は文中の適語補充問題、(6)から(10)は対話文中の適語補充問題となっている。

小問(1) shopping の調査校全体の正答率は51.8%であった。誤答48例のうち、「その他の誤り」と「無答」を合わせると42例あり、「買い物に行った」という文意が理解できず、正答を思い付かなかったようだ。

小問(2) nurse の調査校全体の正答率は20.2%と、非常に低い結果となった。narth を始めとして、nerce や narse などの「つづりの誤り」が69例に上り、単語を思い浮かべることはできるが、正確につづることができなかつたと思われる。

小問(3) key の調査校全体の正答率は52.0%であった。誤答47例のうち、「その他の誤り」が半数超の24例あり、さらにそのうちの15例が kind であった。また無答も14例あり、「ドアが開けられ

ない」という状況から正答を連想できなかつたようである。

小問(4) borrow の調査校全体の正答率は 27.7%であった。誤答 79 例のうち、「その他の誤り」が 68 例と大半を占めていた。buy や bring など「図書館で本を借りる」という状況に合わない誤答が多く、borrow という語の認知度は低いと言える。

小問(5) interested の調査校全体の正答率は 59.8%であった。be interested in という既習の表現を文脈の中で活用できず、interesting という誤答が 20 例と多かつた。

小問(6) subject(s) の調査校全体の正答率は 63.4%であった。「正答」と「つづりの誤り」を合わせると 81 例あつた。B の応答に I'm studying math. とあるので、多くの生徒が教科を問う疑問文であることは理解できたようだ。

小問(7) difficult の調査校全体の正答率は 70.0%で、同じ形式で出題した過年度と比較するとやや下がつたものの、本問中最も高かつた。「その他の誤り」が 10 例と少なく、「無答」が 1 例もなかつたことを考えると、difficult という語は、生徒にとってなじみ深いものようである。

小問(8) season の調査校全体の正答率は 68.1%で本問中 2 番目に高かつた。過年度の類題を見ると、平成 3 年度以降回を経るにつれて正答率が上がってきている。

小問(9) abroad の調査校全体の正答率は 34.6%であった。another や america など文意に合わない誤答が目立ち、abroad という語の認知度は低いと言える。

小問(10) believe の調査校全体の正答率は 16.6%で、本問中最も低かつた。誤答は 96 例に上り、「その他の誤り」が 52 例、「無答」も 34 例と非常に多かつた。このことから、文脈から適切な表現を思い浮かべることができなかつたと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)、(9)、(10)に見られるように、文脈や対話に応じて適切な表現を使うことができない。

<具体的な指導例>

具体的な状況と使用語彙を提示し、英文やスキットを作らせ、さらに会話練習や発表を通じて、実際に活用させる。

例えば、「図書館で本を借りる」という状況と、borrow, books, for a week という語句を提示し、I will borrow three books from the library for a week. などの文を作らせる。状況や使用語彙を変えながら、関連する語彙を増やす。

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、ア～エから最も適当な語(句)を選び、記号で答えなさい。

(1) I have just finished (ア to write イ write ウ writing エ written) a letter to my grandmother.

(2) Classes are fifty minutes long in our school. We have ten minutes (ア between イ during ウ for エ through) classes.

(3) Please call me (ア after イ if ウ so エ while) you can join us.

(4) A: (ア How far イ How long ウ How much エ How often) do the buses come?

B: Every ten minutes.

(5) A: Excuse me, Ms. Brown. (ア Could you イ May I ウ Shall we エ Will you) use your pen?
B: Sure. Here you are.

配点：10点（各2点）

正解 (1) ウ (2) ア (3) イ (4) エ (5) イ

<抽出答案における【3】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全 体 3,284	普 通 科 2,921	総合学科 148	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 71	
(1) writing	68.8	65.4	67.0	54.7	53.6	44.4	81.3	50.7
(2) between		61.2	63.2	45.9	51.8	33.3	87.5	39.4
(3) if		80.4	81.2	79.1	67.9	66.7	93.8	70.4
(4) How often		61.4	63.8	44.6	41.1	34.7	81.3	35.2
(5) May I		75.8	77.5	64.2	69.6	56.9	81.3	53.5

調査校全体の正答率は68.8%であった。

<過年度類題正答率（%）>

小問	23年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(1) finish + 動名詞の用法	65.4	84.7（22年度） 74.4（19年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) writing	33	2	2	正答	29	0
(2) between	41	正答	20	13	7	1
(3) if	17	5	正答	5	7	0
(4) How often	43	4	35	4	正答	0
(5) May I	18	14	正答	2	2	0

<考察>

小問(1)は、動詞の目的語となる writing を選ぶ問題である。昨年度も動名詞を選ぶ問題が出題され、正答率が80%を超えていたが、今年度の調査校全体の正答率は65.4%であった。誤答33例のうちの29例がエ written であった。過年度は過去時制の英文であったのに対して、今年度は現在完了時制であることから、have に続く形を選んだためと思われる。

小問(2)は、前置詞 between を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は61.2%であった。誤答41例のうち20例がイ during, 13例がウ for であった。これは「～の間」という意味をもつ前置詞を明確に区別できていないためと思われる。

小問(3)は、接続詞 if を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は80.4%と本問中最も高かった。if の用法については、よく理解されている。

小問(4)は、頻度を尋ねる How often を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は61.4%と小問(2)に次いで低かった。誤答43例のうち35例がイ How long であった。これは、Bの応答の Every ten minutes. を正確に理解できず、Aが頻度を問う質問であると気付かなかつたためと思われる。

小問(5)は、許可を求める May I を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は75.8%とよくできていた。Bの応答である Sure. や Here you are. は、なじみのある会話表現なので答えやすかつたようだ。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2)のように、類似した意味をもつ前置詞の区別が曖昧な生徒が見られる。

<具体的な指導例>

単に前置詞のもつ意味を教えるだけでなく、多くの例文を提示し、その用法を類推させたり、図や絵などを使って視覚に訴えたりすることにより定着を促す。

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の**ア**と**イ**の文の内容がほぼ同じになるように、()内に最も適当な語を一つずつ書きなさい。

- (1) **ア** Ben plays soccer well.
イ Ben is a () soccer ().
- (2) **ア** Learning about foreign cultures is important.
イ It is important ()() about foreign cultures.
- (3) **ア** They speak English in many countries.
イ The language ()() many countries is English.
- (4) **ア** This computer is not as good as mine.
イ My computer is ()() this one.
- (5) **ア** What is the name of this fish in English?
イ What do you () this fish in English?

配点：15点（各3点，部分点なし）

正解 (1) (good), (player) (2) (to)(learn) (3) (spoken / used)(in)
 (4) (better)(than) (5) (call)

<抽出答案における【4】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,284	普 通 科 2,921	総合学科 148	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 71	
(1) good, player	47.9	58.1	60.8	35.8	33.9	31.9	81.3	32.4
(2) to learn		59.2	62.6	31.1	32.1	30.6	81.3	22.5
(3) spoken / used in		23.6	25.4	6.8	5.4	8.3	75.0	5.6
(4) better than		60.0	63.3	41.2	26.8	20.8	81.3	28.2
(5) call		38.8	41.4	16.9	26.8	11.1	62.5	12.7

調査校全体の正答率は47.9%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	23年度 正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) 動詞表現→名詞句 play soccer well → (good) soccer (player)	58.1	59.5 (17年度) sing well → (good) (singer) 71.2 (16年度) play baseball well → (good) baseball (player) 59.9 (14年度) play soccer well → (good) soccer (player)
(2) 動名詞の主語 →形式主語表現 Learning ~ is ~. → It is ~ (to) (learn) ~.	59.2	69.2 (20年度) Running ~ is ~. → It is ~ (to) (run) ~.

(3) 過去分詞の後置修飾 language (spoken / used) (in) ~	23.6	49.5 (19年度) language (spoken) in ~ 37.1 (7年度) language (spoken) (in) ~
(4) 原級表現→比較表現 A not as good as B → B better than A	60.0	64.5 (17年度) A not as good as B → B better than A 65.9 (5年度) A not as good as B → B better than A
(5) 動詞 call の用法 What is the name of ~ ? → What do you (call) ~ ?	38.8	65.4 (18年度) The name of the animal is ~ → (call) the animal ~ 39.7 (17年度) What is the name of ~ ? → What do you (call) ~ ?

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	誤答例(数)	無答
(1) good player	44	playing well (13), nice player (6), best player (6), play well (4), good play (2), その他 (8)	5
(2) to learn	43	for us / me (18), to learning (6), for learning (2), その他 (13)	4
(3) spoken / used in	82	is spoken / used (23), spoken / used by (14), which / that used (4), which / that speaks (3), they speak (3), to speak (3), その他 (27)	5
(4) better than	36	no / not good (4), older than (3), gooder than (2), bader than (2), その他 (19)	6
(5) call	64	know (26), name (19), say (6), called (4), think (2), mean (2), その他 (5)	0

<考察>

小問(1)は、動詞 play 中心の表現を名詞 play を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は58.1%であった。無答も含めて誤答44例中42例が good を用いていないものであった。副詞 well と形容詞 good の使い分けを苦手とする生徒が多く見られる。

小問(2)は、形式主語 it を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は59.2%で、平成20年度の69.2%と比べて低かった。誤答43例中18例が意味上の主語を答えており、It is ... for ~ to do. の語順で理解しているためと思われる。

小問(3)は、過去分詞の後置修飾に関する問題である。調査校全体の正答率は23.6%と本問中最も低く、平成7年度と比較しても低くなっている。受動態を用いた誤答が82例中23例と最も多かった。これは文意から過去分詞の後置修飾に気付かなかったためと思われる。

小問(4)は、否定語のある原級表現を比較級を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は60.0%で、平成5年度、17年度とほぼ同じであった。誤答36例中12例が than を用いており、比較級と気付いていても正解には至らなかったようだ。

小問(5)は、物の名前を尋ねる表現を call を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は38.8%で平成17年度とほぼ同じであった。誤答は know が64例中26例と最も多く、名前を知っているかどうかの場面と混同したようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3), (5)に見られるように、同じ内容を多様に表現することができない。

<具体的な指導例>

基本的な動詞の活用，比較変化などの派生語を定着させ，同じ内容を表す様々な表現に慣れさせる。また，ペアやグループワークでの会話練習を通して，習った例文を定着させる。

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は Ken と Judy の対話です。(1)～(5)に入る最も適当な表現を下のア～コから選び，記号で答えなさい。ただし，各表現は一度しか使えません。

Ken: How was your history test?

Judy: I think it was OK. (1)

Ken: I studied hard for it, but maybe I didn't do so well.

Judy: (2)

Ken: Thank you.

Judy: Well, do you have a plan for this weekend?

Ken: No. I don't have a plan yet. (3)

Judy: Yes. I'm going to see a movie. Will you come with me?

Ken: (4) What movie do you want to see?

Judy: The new Spielberg movie. I hear it is very exciting.

Ken: Oh, great! I want to see it, too. (5)

Judy: Let's meet in front of the station at 2:00 on Saturday. Is that OK?

Ken: That's perfect. See you then.

Judy: See you.

(注) Spielberg 「スピルバーグ」(アメリカの映画監督)

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------|---------------------|
| ア When and where will we meet? | イ Don't worry about it. | |
| ウ I'm sorry. | エ Do you? | オ How about you? |
| カ I have a good idea. | キ I'd love to. | |
| ク Why don't you come with me? | ケ I have another plan. | コ Are you busy now? |

配点：10点(各2点)

正解 (1) オ (2) イ (3) エ (4) キ (5) ア

調査校全体の正答率は70.7%であった。

<抽出答案における【5】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,284	2,921	148	56	72	16	71
(1) How about you?	70.4	73.0	43.9	58.9	43.1	87.5	49.3
(2) Don't worry about it.	72.0	74.6	47.3	62.5	48.6	87.5	40.8
(3) Do you?	58.6	61.5	31.1	35.7	29.2	75.0	42.3
(4) I'd love to.	69.7	71.9	49.3	58.9	56.9	87.5	38.0
(5) When and where will we meet?	82.6	83.9	71.6	76.8	76.4	100.0	54.9

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) How about you?	26	2	3	1	13	正答	1	0	0	1	4	1
(2) Don't worry about it.	25	0	正答	2	2	1	9	6	4	0	0	1
(3) Do you?	46	0	2	1	正答	21	0	0	8	4	9	1
(4) I'd love to.	33	2	4	3	2	0	12	正答	3	6	0	1
(5) When and where will we meet?	16	正答	0	0	2	0	3	3	6	0	1	1

<考察>

小問(1)は、テストの出来具合を聞かれた Judy が「君はどうだったの」と Ken に尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 70.4%とおおむねよくできていた。誤答 26 例のうち 13 例が **エ** Do you? であった。Do you? を「君はどうなの」という意味に取り違えたためであると思われる。

小問(2)は、「テストがあまりよくできなかった」と言った Ken に対して、Judy が「心配しなくていいよ」と励ましている場面である。調査校全体の正答率は 72.0%とおおむねよくできていた。これは、後に続く Ken の Thank you. という言葉から理解しやすかったためであると思われる。

小問(3)は、週末の予定がないと言った Ken が「君は週末に何か予定があるの」と Judy に尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 58.6%と本問中最も低かった。誤答 46 例のうち 21 例が **オ** How about you? であった。これは、Judy が Yes. と答えているので、Do you? が Do you (have a plan for this weekend)? の意味を含んでいることを理解できなかったためであると思われる。

小問(4)は、映画に誘う Judy に対して、Ken が「喜んで(行くよ)」と応じる場面である。調査校全体の正答率は 69.7%であった。その後、映画についての話題が続いていることから答えやすかったと思われる。

小問(5)は、映画を観に行くことに決めた Ken が、Judy に待ち合わせの時間と場所を相談する場面である。調査校全体の正答率は 82.6%と本問中最も高かった。直後の Let's meet in front of the station at 2:00 on Saturday. から容易に判断できたようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

基本的な会話表現や大まかな対話の展開については理解できているが、小問(3)に見られるように、語句が省略されている表現を適切に使用することが難しい。

<具体的な指導例>

対話練習を通して基本的な会話表現を定着させるだけでなく、同じ内容を繰り返す場面では語句が省略された表現を使うことを理解させるとともに、それらを実際のコミュニケーション活動において使用する機会を設ける。

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力、基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の(1)～(3)の日本語の意味を表すように、下に与えられた語を全部用いて、英文を作りなさい。また、(4)は下線部(A)と(B)の日本語を英文に直しなさい。

- (1) これは私が昨日買った本です。
[book / bought / I / is / the / this / yesterday]
- (2) 私はその知らせを聞いてとても悲しくなった。
[made / me / news / sad / the / very]
- (3) あなたは彼女が明日どこへ行くつもりか知っていますか。
[do / go / know / she / tomorrow / you / where / will]
- (4) 「(A)君うれしそうだね。」
「ピアノを買ってもらったんだよ。」
「いいなあ。(B)ぼくはひき方がわからないんだ。」
「それなら今度教えてあげるよ。」

配点	15点 (各3点 部分点なし)
正答	(1) This is the book I bought yesterday. (2) The news made me very sad. (3) Do you know where she will go tomorrow? (4) (A) You look {happy / glad}. (B) I don't know how to play [the piano].

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全体 3,284	普通科 2,921	総合学科 148	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 71	
(1)	65.7	78.4	80.3	59.5	78.6	65.3	53.5	
(2)		78.7	80.8	62.8	58.9	62.5	56.3	
(3)		53.0	56.3	24.3	26.8	22.2	22.5	
(4)		(A)	57.8	60.0	39.2	42.9	36.1	36.6
		(B)	60.5	63.0	38.5	39.3	38.9	38.0

小問(1)～(3)を整序問題、小問(4)を日本語の内容を英語で表現させる形式とした。調査校全体の正答率は65.7%であった。

<過年度類題正答率>

小問	23年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) 後置修飾 (接触節)	78.4%	37.1 (22年度) The book she wrote last year is very popular. 79.3 (19年度) This is the book I bought yesterday. 30.0 (16年度) The woman you met at the party is my aunt.
(2) 第5文型 make+O+sad	78.7%	75.1 (21年度) These presents made her happy. 53.9 (19年度) The news made my father very sad. 62.7 (18年度) This song makes my mother very happy.
(3) 間接疑問文	53.0%	69.2 (22年度) I don't know who he is. 59.8 (20年度) Do you know who he is? 78.9 (16年度) I don't know where she bought the camera.

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数	
(1)	23	
(2)	13	
(3)	45	
(4)	(A)	50
	(B)	24

<考察>

小問(1)は、後置修飾(接触節)の構文を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は78.4%と高かった。

誤答例 ① This book is I bought the yesterday.	4例
② This is I bought the book yesterday.	4例

誤答23例のすべてにおいて、正答の the book I bought の部分が正しい語順で書いていなかった。

過年度の類題と比較考察すると、「補語における後置修飾」を問う出題の正答率は、本年度78.4%、平成19年度79.3%と高いが、その一方で、「主語における後置修飾」を問う出題の正答率は、平成22年度37.1%、平成16年度30.0%と低くなっている。

小問(2)は、第5文型をつくる動詞 make の理解度を確認する問題である。調査校全体の正答率は78.7%と高かった。

誤答例	The news made very sad me.	8 例
-----	----------------------------	-----

平成 19 年度の類題 The news made my father very sad. の正答率は 53.9%であった。本年度は使用すべき語の中に目的格の me が与えられていたため、主語を決めやすくなり、正答率が高くなったと考えられる。

小問(3)は、間接疑問の語順を理解しているかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 53.0%であった。

誤答例	Do you know where will she go?	22 例
-----	--------------------------------	------

誤答 45 例のうち 28 例は Do you know where までは正しく書けていた。過年度の類題正答率は比較的高く間接疑問の語順はある程度理解されているものの、助動詞を伴う間接疑問の語順については、まだ十分に理解されていないようである。

小問(4)(A)は、第 2 文型をつくる動詞 look を用いた表現を問う問題である。調査校全体の正答率は 57.8%であった。

誤答例	① You looks happy.	15 例
	② You looked happy.	8 例

誤答 50 例のうち 35 例は look を思いついたものの、人称や時制に応じて動詞を適切に用いることができなかった。

小問(4)(B)は、疑問詞+to 不定詞を用いた表現を問う問題である。調査校全体の正答率は 60.5%であった。

誤答例	I don't know play the piano.	6 例
-----	------------------------------	-----

how to という表現はある程度定着している。誤答 24 例のうち 6 例が how to を活用できておらず、正しい文構造が身に付いていないようだ。

<指導上の留意点>

<問題点> 小問(3)のように、助動詞を伴う間接疑問の語順が定着していない。
<具体的な指導例> 間接疑問を用いた例文を音読したり書かせたりしながら、正しい語順を身に付けさせる。また、グループを組んで単語を書いたカードを並べ替えるなどの方法を用いて定着を促す。

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。
【7】 次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。 Once there was a man in a small village. His name was Tom. One day he went into a town. He talked to a woman who was famous for giving good advice. He said, "Please help me. My wife and I have six children. We live in a very small house. We don't like (1) <u>this life</u> . What can we do?" The woman listened to him. She closed her eyes for a short time and asked, "Do you have any animals?" "Yes. We have a rabbit, three dogs and six cats," said Tom. The woman said, " <input type="text" value="ア"/> Go home and take all the animals (2) your house." The next week, Tom went back to the woman. "We like animals but (3) <u>it's too hard to live with them</u> ," he said. "They eat our food and sleep in our beds." The woman closed her eyes again. Then she said to the

man, “ イ Now go home. Take all the animals out of your house.” The man went home and (4) did everything she said.

The next day, he returned. “Thank you for your advice,” he said. “It’s very different without the animals. Now we can eat and sleep. We like our (5). Your advice was very good!”

Some days later, Tom went to see the woman again. He said, “I’ve lost my job. I need a new job. What shall I do?” The woman closed her eyes and said, “You like animals. ウ ”

So he went there to get a new job. The zookeeper said, “ エ Our tiger died last week. We need a new tiger. We want you to (6).”

Tom agreed and the next day he began to work there. The zookeeper gave him a tiger fur. Tom enjoyed his new job. He just walked around, ate food and slept. He was very happy. After a while he heard the zookeeper’s loud voice. “Welcome to our exciting show! We hope you’ll enjoy this exciting fight between a lion and a tiger.” The big lion slowly walked to him and opened its mouth. “Wait!” Tom cried, “I’m not a tiger! I’m a man!”

“Don’t worry.” Tom heard a small voice from the lion. “(7) Me, too.”

(注) advice 「助言」 zookeeper 「動物園の経営者」 fur 「毛皮」
fight 「戦い」 show 「ショー」

- 問 1 下線部 (1) this life の具体的な内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア 町から離れた小さな村で暮らしていること
イ 狭い家に多くの人数で暮らしていること
ウ 妻子や動物と家の中で暮らしていること
エ 動物園で働きながら暮らしていること
- 問 2 空所 (2) に入る語 (句) として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア from イ in front of ウ into エ out of
- 問 3 下線部 (3) のように Tom が言った理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア Tom and his family couldn’t eat much and sleep well.
イ Tom and his family didn’t like animals at all.
ウ Tom and his family didn’t have enough money to live with the animals.
エ Tom and his family couldn’t do anything the woman said.
- 問 4 下線部 (4) did everything she said の具体的な内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア Tom closed his eyes again. イ Tom ate his food and slept in his bed.
ウ Tom went back to the woman soon. エ Tom took all the animals out of his house.
- 問 5 空所 (5) に入る語として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア children イ house ウ village エ zoo
- 問 6 空所 (6) に入る表現として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア fight with a tiger イ find a tiger ウ live with a tiger エ work as a tiger
- 問 7 下線部 (7) Me, too. の具体的な内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア I’m a lion, too. イ I’m a tiger, too. ウ I’m a man, too. エ I’m a zookeeper, too.
- 問 8 Why don’t you go to the zoo? の入る場所として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
ア ア イ イ ウ ウ エ エ
- 問 9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。
ア There was a woman who gave good advice in a small village.
イ Tom lived with his wife and children in a small house.
ウ Tom had more dogs than cats.
エ Tom asked his wife what to do when he lost his job.
オ Tom felt happy when he began to work at the zoo.
カ The zookeeper asked Tom about his animals.
キ Tom enjoyed joining the exciting show between a tiger and a lion.

配点：20点（各2点，問9は各2点）

正解 問1 イ 問2 ウ 問3 ア 問4 エ 問5 イ
 問6 エ 問7 ウ 問8 ウ 問9 イ, オ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全体 3,284	普通科 2,921	総合学科 148	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 71	
問1	61.8	79.9	81.1	67.6	73.2	73.6	93.8	64.8
問2		49.2	50.2	39.2	39.3	41.7	68.8	38.0
問3		63.6	65.8	43.9	53.6	45.8	75.0	36.6
問4		70.8	72.5	55.4	62.5	58.3	93.8	46.5
問5		58.3	60.6	32.4	39.3	47.2	81.3	39.4
問6		43.9	45.8	27.0	30.4	33.3	62.5	15.5
問7		58.1	60.5	33.8	42.9	41.7	93.8	31.0
問8		68.1	69.4	50.7	62.5	58.3	75.0	63.4
問9		イ	69.4	70.6	58.1	57.1	66.7	87.5
	オ	56.5	58.5	35.1	37.5	43.1	75.0	40.8

調査校全体の正答率は61.8%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問1	19	7	正答	12	0				0
問2	56	16	7	正答	33				0
問3	33	正答	2	21	10				0
問4	28	6	9	12	正答				1
問5	39	12	正答	11	16				0
問6	62	11	34	17	正答				0
問7	36	15	7	正答	13				1
問8	31	7	9	正答	14				1
問9	75	11	正答	8	13	正答	17	24	2

<考察>

問1は、this life が具体的に何を指すかを問う問題である。調査校全体の正答率は79.9%と本問中最も高かった。直前に、My wife and I have six children. We live in a very small house. とあるので、正解を導きやすかったと思われる。

問2は、女性が Tom に与えた助言に関する問題である。調査校全体の正答率は49.2%と低く、誤答56例のうち、エ out of を選んだ誤答が33例と半数以上を占めていた。これらの生徒は、次の段落に書かれている Take all the animals out of your house. という表現から判断しており、「一旦動物たちを家の中に住ませてみて、不自由さを味わった後で解放する」という女性の助言を正確に理解することができなかったようである。

問3は、動物との生活が困難な理由を問う問題である。調査校全体の正答率は63.6%であった。誤答33例のうち、ウ Tom and his family didn't have enough money to live with the animals. を選んだ誤答が21例と非常に多かった。They eat our food and sleep in our bed. という直後の文と関連付けて理解できなかったと思われる。

問4は、*did everything she said* が具体的に何を指すかを問う問題である。調査校全体の正答率は70.8%と高く、誤答は分散していた。直前に *Take all the animals out of your house.* とあるので理解しやすかったと思われる。

問5は、動物を屋外に出した後の Tom の心境を問う問題である。調査校全体の正答率は58.3%であり、誤答は分散していた。*Now we can eat and sleep.* という直前の文から、家での暮らしが快適になって Tom たちが満足していることを読み取れなかったようである。

問6は、動物園の経営者が Tom に依頼した仕事の内容を問う問題である。調査校全体の正答率は43.9%と本問中最も低く、誤答62例のうち、*I find a tiger* を選んだ誤答が34例と半数以上を占めていた。これは、*Our tiger died last week. We need a new tiger.* という直前の内容だけに着目し、トラの毛皮を着て身代わりをするという次段落の内容まで考慮しなかったためと思われる。

問7は、*Me, too.* の具体的な内容を問う問題である。この物語の結末に関わる問題であったが、調査校全体の正答率は58.1%とあまり高くなかった。*Me, too.* が前の段落にある *I'm a man!* に対する返答だと理解することができなかつたためと思われる。

問8は、*Why don't you go to the zoo?* を本文中の適切な位置に入れる問題である。調査校全体の正答率は68.1%であった。ウの直後の文である *So he went there to get a new job.* を手掛かりにして答えることができたと思われる。

問9は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校全体の正答率は、イが69.4%、オが56.5%であった。誤答75例のうち、キを選んだ誤答が24例と最も多かった。これは文中の *We hope you'll enjoy this exciting fight between a lion and a tiger.* から誤って判断したと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

問2, 6に見られるように、内容把握の手掛かりを直前の文や段落に求め、後に続く展開を考慮しないため、文全体の大意を理解することができない。

<具体的な指導例>

英文を読む時には段落間のつながりを意識させることが大切である。例えば、ペアやグループで段落ごとの内容をまとめさせたり、英文を段落ごとに無作為に並べ、適切な順に並べ替えさせたりして、段落間の内容を関連付けさせる。特に理解させたい内容については、ペアで Q & A を行うなど、大切なポイントの理解を深めさせる。

(8) 聞き取り問題

問題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

【8】 この問題は、先生又は放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×を付けなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

Keiko: Hi, Tom.

Tom: Hi, Keiko. Where are you going?

Keiko: I'm just going to a book shop. I want to buy a book to study English on the radio. Where are you going?

Tom: ABC Store. I'm looking for a present for my sister, Rachel. Tomorrow is her birthday.

Keiko: Oh, she gave me a CD for my birthday last year. I want to give her a present,

too. Can I go with you?
 Tom: Sure. How long will it take to buy the book?
 Keiko: Just a few minutes. I've decided what to buy.
 Tom: OK. First, let's go to the book shop and then to ABC Store. Oh, I have to send a letter. Is it OK to go to the post office first?
 Keiko: Sure. Well, what should I buy for Rachel? Will you help me?
 Tom: Then, let's buy her presents together.
 Keiko: It really helps me. Thanks.

- Question 1 Does Keiko study English on the radio?
 (a) Yes, she does. (b) No, she doesn't.
 (c) Yes, she did. (d) No, she didn't.
- Question 2 Who gave a present to Keiko last year?
 (a) Tom does. (b) Rachel does.
 (c) Tom did. (d) Rachel did.
- Question 3 What was Keiko given as her birthday present?
 (a) A book. (b) A CD.
 (c) A radio. (d) A letter.
- Question 4 Where will Tom and Keiko go first?
 (a) To a book shop. (b) To ABC Store.
 (c) To a post office. (d) To a CD shop.
- Question 5 Who will give the presents to Rachel?
 (a) Tom will. (b) Keiko will.
 (c) Tom's sister will. (d) Tom and Keiko will.

配点 10点 (各2点)

正答 Question 1 a (○) b (×) c (×) d (×) Question 2 a (×) b (×) c (×) d (○)
 Question 3 a (×) b (○) c (×) d (×) Question 4 a (×) b (×) c (○) d (×)
 Question 5 a (×) b (×) c (×) d (○)

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確かめる問題である。問題を、「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順で提示した。

本年度の内容は、買い物に行く途中で会った Keiko と Tom が、Rachel の誕生日の贈り物について話し合っている会話である。問題文の語数は142語であり、昨年度の131語よりやや長くなっている。質問は Yes 又は No で答える疑問文を1問(Question 1)及び疑問詞を使った疑問文を4問(Questions 2, 3, 4, 5)とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○又は×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は60.0%であった。

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,284	普 通 科 2,921	総合学科 148	商業科系 56	家庭科系 72	英語科系 16	他の学科 71	
Question 1	60.0	76.8	76.9	70.3	83.9	81.9	100.0	69.0
Question 2		58.4	60.4	44.6	32.1	45.8	75.0	35.2
Question 3		60.0	61.1	50.7	51.8	50.0	75.0	49.3
Question 4		55.8	58.3	28.4	46.4	36.1	100.0	26.8
Question 5		49.1	50.8	36.5	28.6	36.1	81.3	25.4

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)
Question 1	25	正答	17	5	3
Question 2	43	6	17	20	正答
Question 3	40	19	正答	7	14
Question 4	50	35	15	正答	0
Question 5	53	22	8	23	正答

<考察>

Question 1 は、「Keiko はラジオで英語を勉強するか」を問うものである。調査校全体の正答率は 76.8%と本問中最も高かった。会話の冒頭で Keiko が I want to buy a book to study English on the radio. と言っているので、答えやすかったようだ。

Question 2 は、「昨年誰が Keiko に贈り物をしたか」を問うものである。調査校全体の正答率は 58.4%であった。誤答のうちで最も多かったのは、(c) Tom did. であった。これは Tom の I'm looking for a present for my sister, Rachel. と、それに続く Keiko の She gave me a CD for my birthday last year. を関連付けて理解することができなかつたためであると考えられる。

Question 3 は、「Keiko は誕生日の贈り物として何をもらったか」を問うものである。調査校全体の正答率は 60.0%であった。誤答は、(a) A book. (19例) と、(d) A letter. (14例) が多かった。これは、質問文を正確に理解していなかつたためと思われる。また、Keiko の She gave me a CD for my birthday last year. を正確に聞き取ることができずに、会話中で話題になった、a book や a letter と混同したことも原因であろう。

Question 4 は、「Tom と Keiko はまず最初にどこへ行くか」を問うものである。調査校全体の正答率は 55.8%であった。誤答 50 例のうち 35 例が、(a) To a book shop. であった。会話中で、Tom が「本屋へ行く前に郵便局へ行ってもよいか」と尋ね、Keiko が了承している。この内容を、前後関係を表す first という語に着目して、順序立てて理解することができなかつたためであろう。

Question 5 は、「誰が Rachel に贈り物をするか」を問うものである。調査校全体の正答率は 49.1%と本問中最も低かった。誤答は、(a) Tom will. (22例) と、(c) Tom's sister will. (23例) が多かった。Rachel が Tom's sister であるという人物関係を正確に把握することができなかつたことや、Tom の Then, let's buy her presents together. という発言から、Tom と Keiko の二人で Rachel に贈り物をするという内容を理解できなかつたことが原因と考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

Questions 2, 4, 5 のように、会話の中で聞き取った内容を関連付けて理解することができない。

<具体的な指導例>

まとまりのある英文を聞かせ、聞き取った内容を整理し、自分の言葉で表現させる。それを文章でまとめたり、ペアで発表させたりする。